

昭和21年7月10日第3種郵便物認可



練習する田辺と田辺工業の合同チーム (田辺市学園で)

同じ校名で初交流

ラグビーフェスタ 上富田 京都の「田辺高」と 25日から

田辺市学園の田辺高校ラグビー部が、同じ校名の縁で、京都府京田辺市の田辺高校ラグビー部と交流試合をする。舞台は上富田町で25～28日に開かれる高校生の交流大会「紀州口熊野かみとんだラグビーフェスタ」。互いに試合をするのを楽しみにしている。

田辺市の田辺高は部員8人。新入生が入るまでの間、田辺工業高校ラグビー部(部員7人)と合同でチームを組んでいる。京都の田辺高は部員15人で、和歌山県に来るのは初めて。

京都の部員が田辺と交流したいと考え、田辺市に住んでいる親戚に相談したのがきっかけ。話を聞いた田辺の橋脇正典監督(35)が、せっかくなら多くの高校が参加するラグビーフェスタに招待しよう

と実現した。

ラグビーフェスタは上富田町スポーツ観光推進協議会が、同町朝来の上富田スポーツセンターで開く。地元校に加え、全国大会常連の強豪校など約40校が出場する。観覧は無料。地元の熊野、田辺、田辺工業の部員やOBらが運営も担う。京都の田辺高は25、26日に参加する。

田辺市の田辺高主将で2年の那須輝一君(17)は「和歌山とは違うラグビーを肌で感じたい。これを機会に京都の田辺高校と交流していければ」、橋脇監督は「同じ校名で、人を通じてつながりができたことに縁を感じ、親近感も感じている。試合をするのが楽しみ。このつながりや縁を大切にしていきたい」と話している。

京田辺市田辺高の奥野武彦監督(52)は「伝統ある和歌山の田辺高校と、同じ校名の縁で交流させていただけのにはありがたい。今後も定期的に試合をする間柄になれたら」と期待している。